

---

# ラヴィング

葵 景子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ラヴィング

### 【Nコード】

N9891A

### 【作者名】

葵 景子

### 【あらすじ】

初めて書きます。こういう、純粋な恋物語。感想、評価たくさんして欲しいです。

また、あたしからだよ。

彼にメールを送る度に思う。

あっちからきても、すぐに返事返ってこなくなって終わるし。

最近、恋に悩んでいるあたし、橋本 有里。

彼とは、近遠距離恋愛中。近いようで遠く、遠いようで近い、というやつだ。

彼には会いたいけど。

もつと痩せて、自分を研がなくちゃ!!!でも、受験生だから、偏食したりして頭バカになっちゃいけないし。

そんな事を毎日毎日思いながら、彼にメールを送っている。

そして、あたしは彼と違う学校に転校したので、まわりは付き合い合ってる事を知らないし、彼もメールで、友達できた???と心配してくれるけど、あたしにはそれがバカにされてるようで、ちょっと不快だ。

だから、いつつもメールでは、つよがってしまふ。

こんな性格変えたいのに。

いつも、いつまでも思ってる事だった。

受験が終わって、彼が久しぶりにデートに誘ってくれた。あたしはもちろん、つよがって、あまり嬉しくない素振りをしていた。

心の中では喜びまくっているのに…。

デート当日。

ミニスカとブーツにするか、ロンスカとパンプスにするか随分と迷ったが、結局は、前者にした。

「え　？遅かった？」

待ち合わせをしていた駅で、彼に言われた。

「うん。超遅いよ。」

素直に可愛く、

「全然だよ」

って言えば良いのに。

デートは普通に、映画を見て、他愛無い会話を交わした。

本当は、言いたかった。

久しぶりにあったから、言いたかった。

> 大好きくって。

帰り道、手を繋いできて、彼が言った。

「あのさ。俺。お前の事、本当に大切に思ってるから。」

いつものあたしなら、

「ありがとね。」

で終わっていただろう。

でも、今日のあたしは違った。

「あのさ。」

あたしはゆつくり言った。

「ん？なんだよ。」

「あの。だから。その。。。大好き。」

あたしは顔を俯いたまま、そういった。

「今日はやけに素直じゃん。」

彼はそう言って、手を強く握ってきた。

あたしは、思ってた事を言った。

「離れたくないよ。」

あたしがそう言っていると、彼はこう言った。

「俺も。」

あたし達は、長く伸びる影を見ながら手を強く握って歩いていた。

そして、沈黙を破るように彼が言った。

「俺、つよがりなお前も好きだけど、素直なのも好きだわ。惚れ直したよ。」

あたしは顔が赤くなるのが自分でも分かった。

そして、最後に彼が言った。

「HAPPY ANNIVERSARY」

今日は、付き合って1年目の、記念日だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9891a/>

---

ラヴィング

2010年10月10日05時23分発行